

いずみさの昔と今 第324回

「郷土玩具と動物」

9月17日(土)〜12月11日(日)に開催されている「ぜんこく縦断！郷土玩具展」と関連して、郷土玩具について、テーマを変え3回にわたり紹介しています。最終回となる今回は、動物の形をした郷土玩具にフォーカスを当てて紹介していきます。

まず初めに、「犬張子」です。犬張子は、江戸時代中期から江戸で作られており、東京を代表する郷土玩具のひとつです。犬の姿を表現した張子で、背中にでんでん太鼓を背負っているものや、箆をかぶっているものもあります。犬は多産でお産も軽いことから、安産や子育てのお守りとして親しまれてきました。また、でんでん太鼓を背負ったものは、「裏表のないう子に育つ」という願いを込めて、お宮参りの祝い物にもなっています。

「たこあげ大会」が開かれるなど、風揚げが盛んな地域でした。今から約50年前に、下関の風愛好家の特産品のふぐをモチーフにした風を作り、現在では下関の郷土玩具になりました。ふぐは濁点を付けず「ふく」と呼ぶことから、「福」とかけて「福を招く風」として親しまれています。

最後は、大阪府にある住吉大社で授与されている「初辰猫」です。袴を着た猫の姿をしており、右手をあげているものはお金を招き、左手をあげているものは人を招くといわれています。住吉大社では毎月最初の辰の日に4つの末社にお参りする「初辰まいり」が行われており、その際に「楠瑠社」で初辰猫を授かります。毎月参拝をし、初辰猫を48体集めると「始終発達」とかけ満願成就となります。また初辰猫のサイズは大小と3種類あり、小サイズを48体そろえると中サイズ1体と交換ができ、中サイズ2体と小サイズ48体をそろえると大サイズ1体と交換ができます。

大サイズ2体をそろえようと思うと、少なくとも24かかります。初辰まいりには、「継続」という商売人の教訓が込められているのかもしれない。

今回の企画展では、ご紹介した郷土玩具の他にも100を超える郷土玩具を展示しています。ぜひ、お気に入りの郷土玩具を探しに足を運んでみてはいかがでしょうか。



▲初辰猫

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館）
開館時間 午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

日本遺産・北前船文化を巡る⑨ ～西法寺（開かずの門）～

「日本遺産」に追加認定された「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～」のストーリーを構成する泉佐野市の文化財等を紹介しします。

問合せ 文化財保護課



日本遺産「北前船寄港地・船主集落」の構成文化財である西法寺は、豪商食野家が建立したと言われる浄土真宗の菩提寺です。佐野御坊とも呼ばれました。楠木一族のいわれがある食野家の関係からか、屋根瓦には菊水紋が入っています。

食野家が寄進したといわれる西の鼓楼門は、食野家のみが通ることのできる参拝口で、元食野家宅の方向を向いています。また奉納された經典など、食野家ゆかりの品もみられます。境内には樹齢千年以上と言われるカイヅカイブキがあり、門前には興正寺門跡が訪問された際の「おかごよせあと」碑が建立されています。



西法寺（西の鼓楼門）